

社会福祉法人

神戸いのちの電話 事業案内

2018年度事業報告・2019年度事業計画

ごあいさつ

社会福祉法人 神戸いのちの電話
理事長 水野 雄二

2019年度の歩みが始まりました。去る2018年度の私たちの歩みに対しまして、兵庫県、神戸市をはじめ多くの支援団体の皆様、維持・賛助会員の皆様、また相談員、研修委員、役員、評議員の皆様など、それぞれのお立場で多大なご支援、ご奉仕、ご協力を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

神戸いのちの電話は、昨年度も多くの悩み苦しむ人々の傍らに寄り添うという原点を確認しながら、活動を継続することができました。全国の統計によると、1998年に自殺者が3万人を超えて以来14年間も3万人を下ることのなかった数が、2012年から7年続けて3万人を下回り、2018年の総数は9年連続の減少となる20,598人であったという報告がありました。兵庫県においても3年連続して1000人を下回り、954人(前年比22人減)でした。全体的な自殺者の減少は喜ばしいことですが、今なお2万人を超える数字は決して少ない数ではありませんし、若年層は微増し、憂慮すべき現状です。そして何よりも数字では計れない多くの方々の苦痛や悩みの深さを思う時に、お一人お一人の個別なケースに対応して、まだまだ私たちの役割は強く大きく求められるものです。現実には、神戸いのちの電話は2018年度も年間12,644件の電話相談を受け、その数は前年とほぼ同数(292件減)で、多くの悩める人々の存在をそこでも確認することができました。

神戸いのちの電話はこのように大きな社会的意義を持つ活動でありながら、一方で大きな課題をもって、日々活動を続けています。目標である24時間365日の電話受信の実現には、まだまだクリアすべき課題があります。相談員の確保、維持、養成が大きなテーマです。相談員の養成は私たちの使命実現に不可欠ですが、相談員をいかに確保し、維持し、養成するかには更なる努力が必要です。

また、近年、クローズアップされる若者の電話離れ、SNSへの依存という現象に対して、青少年のネット相談という需要にいのちの電話という仕組みはどのような対応していけるか、検討を続けなければなりません。

財務の健全化は依然として私たちの大きな課題です。相談員、職員の努力によって、かろうじてバランスを保っていますが、今後、財政の安定を図らなければ、団体の継続が危ぶまれる可能性を孕んでいます。

このような課題を持ちつつ、私たちにできることは小さなことかも知れませんが、長く大切にしてきた活動を継続し、少しでも悩み苦しむ人々に寄り添うことができれば、と願っています。

「都会では、自殺する若者が増えている。今朝来た新聞の片隅に書いていた」という刺激的な歌詞で始まる「傘がない」という歌は、私の青春時代(1972年)にシンガーソングライターの井上陽水が歌って、彼の代表曲になりました。1972年、まさに私が大学に入学した年、札幌オリンピックがあり、あさま山荘事件があった年です。「傘がない」では、都会の若者の自殺を淡々と伝えながら、自分の問題としては社会の問題よりも、雨の中、君に会いに行くための傘がないと嘆くのです。「だけでも問題は今日の雨、傘がない」

当時は、若者のエネルギーを集めた学生運動があさま山荘事件に象徴されるように急速な終焉に向かい、政治闘争に敗れた若者の虚脱感、虚無感を表現した歌として、また沸き起こってくるミーイズム(自己中心主義)を主張した歌として解釈されたものでした。しかし、今、井上陽水の意図とは関係なく、この「傘がない」という現実の課題は現代においてもいろいろな意味を感じさせますし、作者自身、最近のテレビインタビューに対して「当初の“傘”の意味と、最近は違うように感じています。もっと広く大きなすべてを包み込むような“傘”をイメージするようになり、今の社会において、それがいろんな様相で“ない”と感じています。」と答えています。

先日(3/20)の神戸新聞のコラムに「傘がない」話が載せられていて、なるほどと思って読みました。それは「雨宿り、といえ家々の軒下や店先が思い浮かぶ。」と書き出して、現代は突然の雨をやり過ごす軒下が少なくなったと言い、「せめて心の中にでも軒を作りたいもの」と続けています。そして、尼崎市の中学2年の女子生徒の自殺を紹介し、その生徒の示したSOSサインを教師が見てくださったことに言及して、「生徒は先生という“心の軒”を信じて駆け込んだはずである。学校が傘をさしかけることはなかった。」と厳しい指摘をしています。誰しも、心に雨の降る日はあって、どこかで雨宿りがしたい、傘を差し掛けてほしいと願う日はあるものです。そのような時に「傘がない」のは大きな問題です。私たち自身も時々傘を求めるように、誰かが傘を欲している時に、傘を差し掛け、傘に入れてあげられたらいいなと思います。大きな傘、小さな傘、カラフルな傘、日傘、洋傘と傘にも個性がありますが、私たちの差し出せる傘で良かったら、誰かの雨宿りのお役に立ちたいと思っています。ちなみに今日(原稿執筆日)は真っ青の空、快晴です。今日は若い命が輝きを増す春の日で、傘は不要の一日ですが、“心の傘”は要りようではありませんか？

本年度もこの活動の維持発展のために、皆様の温かいお励ましとご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年度役員				後援会メンバー	
理事長	水野 雄二	評議員	横山 政夫	会長	雀部昌吾(バンドー化学)
理事	濱 浩一		川崎 厚志	副会長	野澤太一郎(ノザワ)
	井出 浩		中道 京子	副会長	中道基夫(神戸YMCA)
	宗行 孝之介		飛田 雄一	世話人	太田敏郎(ノーリツ)
	藤井 薫		安行 英文	世話人	瀧川博司(兵庫トヨタ)
	瀬戸 昭		井上 真二	世話人	寺本 督(淡路屋)
	河南 高行		上谷 佳宏	世話人	藤尾益也(神明)
監事	山根 泉		高内 憲一	世話人	高嶋良平(高嶋酒類食品)
	上杉 徹		神保 喜美子	世話人	下村俊子(神戸風月堂)
顧問	山口 徹		※理事:監事は2019年6月改選(任期2年)による		

I. 2018年度 事業報告 (2018年4月1日~2019年3月31日)

※敬称の省略、順不同などご了承ください

1. 電話相談活動

名称	神戸いのちの電話	自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)
電話番号	078-371-4343	0120-783-556
電話相談 時間帯	月曜~金曜:8:30~20:30(第2、4金曜は以下に) 土曜:8:30~翌日曜:16:00(連続31時間30分) 第2、4金曜:8:30~翌々日曜:16:00(連続55時間30分) 祝日:8:30~16:00	毎月10日:8:00~ 翌11日:8:00(連続24時間)
受信件数 2018年度	総数:12,023件(うち深夜帯:1,013件) 内訳:男性:5,831件、女性:6,192件	総数:621件(うち深夜帯:273件) ※福島よりそいフリーダイヤル2件を含む 内訳:男性:337件、女性:284件
上記の 自殺傾向	772件(総数に対する比率:6.4%) 内訳:男性:302件、女性:470件	88件(総数に対する比率:14.2%) 内訳:男性:39件、女性:39件
段階別	念慮:724件、危険:36件、予告通告:8件、実行中:4件	念慮:79、危険:8、予告通告:1、実行中:0
受信件数 2018年1月 ~12月	総数:12,056件(うち深夜帯:1,011件) 内訳:男性:5,709件、女性:6,277件	637件(うち深夜帯:277件) ※福島よりそいフリーダイヤル2件を含む 内訳:男性:345件、女性:292件
上記の 自殺傾向	839件(総数に対する比率:7.0%) 内訳:男性:330件、女性:509件	98件(総数に対する比率:15.4%) 内訳:男性:51件、女性:47件
段階別	念慮:790件、危険:33件、予告通告:12件、実行中:4件	念慮:90、棄権:8、予告通告:0、実行中:0
開局以来の累積受信件数	送受信件数 446,677件 (男性:254,598件、女性:192,079件)	
相談員在籍数(4月1日)	150人(男性:21人、女性:129人)	前年:144人(男性17人、女性:127人)

2. 継続研修

名称	継続研修	受講対象者:相談員全員(休会者を除く)	136人
構成	13グループ(新任相談員は2グループで、更新相談員は前年と異なるグループに振り分け)		
実施	毎月実施(4月:年度計画、5~7月:ロールプレイ等、8月:全体での特別研修、9~3月:ロールプレイ等)		
担当 研修 委員	白石大介(33期全員)A【10】、B【11】	宮川数君【11】	井出 浩【11】
	本多雅子【11】	戸田みな子【10】	南部真理子【9】
	岡田由美子【10】	原田美佐代【10】	長谷川 泉【11】
	【】は担当相談員数(4月当初)		
統一テー マでの 特別研修 (8月)	課 題	「対応に苦慮する電話」研修	位置づけ
	日 程 (参加者数)	8月3日(金)夜間(参加者:33、内はりま:1)	継続研修の一環、はりまセンターとの交流
		8月4日(土)午後(参加者:66、内はりま:7)	
		8月21日(火)午前(参加者:27、内はりま:3)	
継続研修 振り返りの会	位置づけ	一年間の振り返り、各継続研修グループの代表と研修委員による協議・反省等	
	日 程	3月19日(火)午後	参加者:相談員:16、研修委員:4(南部、白石、本多、戸田)

3. 各種研修

名称	全体研修ロールプレイ	受講対象者:相談員全員(休会者を除く)		
内容	フリーダイヤル電話相談のためのロールプレイ研修:講義+ロールプレイ)			
日程	7月13日(金)夜間	講師:阪田、補助:南部、岡田	受講者:38人	
	7月24日(火)夜間	講師:阪田、補助:戸田	受講者:32人	
	7月28日(土)午後	講師:阪田、補助:本多、宮川	受講者:52人	
名称	自主研修	企画:24時間眠らない電話小委員会	受講者:39人	
内容	講義+質疑応答	講師:藤藪庸一(白浜レスキューネットワーク理事長)		
日程	2月16日(土)午後	テーマ:「寄り添い続けて学んだこと」		
名称	研修委員一泊研修	参加者	研修委員:11人、事務局:2人	
内容	研修委員会の懸案事項の検討・協議、研修委員間での情報交換・共通理解の形成			
日程	9月22日(土)午後~23日(日)午前	会場	六甲山YMCA	

4. スーパービジョン

目的	相談員の電話相談による心理的負荷へのケア	対象者:希望する相談員
	相談員の振り返り、聴き方の再確認など	対象者:新任相談員及び指定された更新相談員
日程	4月7日、24日; 5月16日; 6月21日; 7月4日、10日; 9月20日; 10月4日、27日; 11月6日、8日、9日、13日、16日、27日; 12月6日、15日、19日、22日; 1月15日、19日(2)、25日、31日; 2月7日(2)、8日、9日、13日、20日、23日; 3月5日、14日 ※(2)は同日に2人の研修委員が実施	
担当者 (研修委員)	白石(10)、南部(9)、本多(6)、戸田(6)、岡田(5)、阪田(4)、藤井(4)、西尾(2)、原口(2)、 都村(2)、井出(1)、宮川(1) ※()内の数字は担当した人数	
受講者	希望者:21人、新任相談員(33期):14人、12~15期:9人、25~26期:5人、その他:3人	

5. 養成講座(34期)…木曜夜間実施

日程	面接	6月9日(土)午後、10日(日)午後 応募:16人→受講(合格):14人
	講義	6月21日(木) 担当:清水将之 テーマ:いのちの電話とは、なぜボランティアなのか
6月28日(木) 担当:水野雄二 テーマ:ボランティア論		
7月19日(木) 担当:本多雅子 テーマ:電話相談の基本①		
7月26日(木) 担当:宮川数君 テーマ:電話相談の基本②		
9月13日(木) 担当:都村尚子 テーマ:電話相談の基本③		
9月25日(木) 担当:W.エルダー テーマ:電話相談の基本④		
12月6日(木) 担当:事務局 テーマ:実務について		
12月13日(木) 担当:井出浩 テーマ:相談員の倫理		
内容	一泊研修	7月7日(土)~8日(日)、会場:六甲山YMCA…警報発令のため中止
	【代替】	12月1日(土)午後、半日研修、担当者(研修委員):阪田、本多、参加:13人
	ロールプレイⅠ	8月2日、9日、30日、9月6日 Aグループ:受講者7人、担当者(研修委員):白石、南部+アシスタント2人 Bグループ:受講者7人、担当者(研修委員):原口+アシスタント2人
ロールプレイⅡ	9月20日、27日、10月4日、11日 Aグループ:受講者7人、担当者(研修委員):戸田+アシスタント2人 Bグループ:受講者7人、担当者(研修委員):宮川+アシスタント2人	

日程	ロールプレイⅢ	10月18日、11月1日、8日 Aグループ:受講者:7人、担当者(研修委員):本多+アシスタント2人 Bグループ:受講者:7人、担当者(研修委員):藤井+アシスタント2人
	電話実習	期間:12月14日~2月13日、受講者:13人、延べ実習回数:52回 モニター(研修委員):南部、井出、白石、本多、戸田、西尾、阪田、藤井、岡田
	グループワーク	①2月14日、担当者(研修委員):白石、戸田、本多、阪田、井出、藤井、岡田 ②2月21日、担当者(研修委員):白石、戸田、本多、阪田、藤井、岡田
内容	担当者会議	7月28日、出席者:(研修委員)白石、本多、戸田、宮川、(アシスタント)3人、(事務局)1人
	進級会議	11月24日、出席者:南部、井出、白石、本多、戸田、藤井 進級:13人
	仮認定会議	2月24日、出席者:南部、井出、白石、本多、戸田、阪田、藤井、岡田 仮認定:11人
	オリエンテーション	3月13日

6. 公開講座…会場はすべて神戸市総合福祉センター

名称	『生きづらさの中を生きる(8回連続講座)』【木曜夜間開催】※6回以上出席で養成講座に進む	
4月5日	講師:羽下大信、『対人援助という活動~アマチュアリズムと専門家、どう違うのか』	受講:42人
4月12日	講師:稲垣由子、『家庭内の暴力 児童虐待』	受講:38人
4月19日	講師:関本雅子、『ターミナルケア「看取る」とは』	受講:46人
4月26日	講師:大塚美菜子、『ストレスとPTSDのケア』	受講:52人
5月10日	講師:川喜田好恵、『今、ジェンダー(性)の抱える問題とは』	受講:47人
5月17日	講師:阪田憲二郎、『ひきこもり・依存症など 現代の心の病について』	受講:44人
5月24日	講師:井出浩、『心の病について』	受講:57人
5月31日	講師:白石大介、『人生における危機とその対応』	受講:51人
名称	『あなたをひとりぼっちにさせない~そっと寄り添い、じっくり聴くために』※34期相談員養成講座説明会	
2月16日(土)午後	講師:藤藪庸一、『白浜での自殺防止活動について』	受講:85人
3月2日(土)午後	講師:都村尚子、『認知症を生きる人との対話』	受講:58名

7. 広報活動

広報等の印刷・発送	◎広報74号、6月印刷(2,000部)、6月15日、支援者・関係団体へ発送(480通) ◎事業案内(2018~19年度版)、6月印刷(1,000部)、6月15日、広報と共に発送 ◎広報75号、12月印刷(2,500部)、12月14日、支援者・関係団体へ発送(870通)
学校等への配布	◎学校関係への配布(広報の発送に合わせて、連盟のポスターと共に以下の学校へ配布) 兵庫県立高・特別支援学校など(200)、神戸市立小・中・高(270)、県内私立小・中・高(100)、 尼崎市立学校(70)、伊丹市立学校(30)、明石市立学校(行政機関を含む)(140)

8. 事務局

内部監査	期日:5月17日(木)午後、事務局、上谷、山根両監事による(理事長、会計顧問も立会い)
資産登記	期日:6月26日(火)午後、神戸地方法務局

9. 日本いのちの電話連盟関係行事

2018年度日本いのちの電話連盟定時社員総会	5月25日(金)※理事会当日のため、欠席(委任状提出)
全国事務局長会議	5月26日(土)、富士見教会(東京・飯田橋)、事務局長出席
自殺予防シンポジウム	9月23日(日)、かしはら万葉ホール(奈良県橿原市)、相談員4人参加
第35回いのちの電話全国研修大会	10月18日(木)~20日(土)、新潟いのちの電話、相談員12人参加
近畿・中部ブロック会議	1月22日(火)、奈良いのちの電話会議室、事務局長代行(2名)出席

10. 兵庫県・神戸市の自殺対策会議

兵庫県自殺対策連絡協議会	7月26日(木)午後、県民会館、事務局員出席 3月15日(金)午後、県民会館、事務局長代行出席
神戸市自殺対策推進協議会	8月30日(木)午後、市総合福祉センター、事務局長出席 3月7日(木)午後、市総合福祉センター、事務局長代行出席
神戸市自殺未遂者事例検討会	3月13日(水)午後、市総合福祉センター、事務局長代行、研修委員出席

11. 外部向け活動報告など

神戸西ワイズメンズクラブ活動報告	4月19日(木)夜間、細田地域福祉センター、事務局長出席
神戸市シルバーカレッジ特別講座	5月1日(火)午前、しあわせの村(シルバーカレッジ)、事務局長担当
神戸ポートワイズメンズクラブ活動報告	5月10日(木)夜間、神戸YMCA、事務局長出席
いのちと生きがいプロジェクト報告会	6月25日(月)午後、県公館、事務局長出席

12. 委員会・部活動

委 員 会	理事会	【4回】5月25日、9月25日、12月3日、3月25日
	評議員会	【2回】6月12日、3月25日
	運営委員会	【5回】6月5日、8月6日、11月6日、12月12日、2月26日
	研修委員会	【6回】4月17日、6月19日、9月22~23日、11月20日、1月29日、3月19日
	相談員委員会	【11回】4月23日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、10月1日、 11月12日、12月10日、1月15日、2月4日、3月10日
	広報委員会	【2回】9月10日、2月20日
	財務委員会	【3回】5月7日、10月30日、2月25日
	統計小委員会	【2回】9月18日、3月12日

相談員の会 部活動	事業部	部会2回、バザーの実施、事務局内での物品販売→収益を法人に
	相談業務部	部会5回、交流会(はりまセンターとの)の企画・実施、休憩コーナーの管理
	紫陽花編集部	部会12回、内部広報紙『紫陽花』の編集・発行(毎月)
	24時間委員会※	部会10回、自主研修の実施、24時間化・当番空き枠への取組み
	財務部	部会2回、外部広報誌発送の手伝い、寄付依頼の発送
	広報部	部会6回、外部広報誌の編集・発送
	イベント部	部会4回、イベントの企画・実施→収益を法人に

※正式名称…24時間眠らない電話小委員会

13. その他の活動

KINDの会	【日程】4月21日(土)午後、【会場】神戸栄光教会、【参加者】115人 【内容】新任相談員(33期)の認証、現相談員の更新、研修委員の委嘱など
イベント	【日程】6月16日(土)午後、【会場】婦人会館さくらホール、【参加者】145人 【内容】永遠璃マリールイズさん講演会『自分を生きる つながるいのち』
交流会(はりまとの)	【日程】8月4日(土)昼食時、【会場】総合福祉センター、【参加者】56人(内はりま6人)
バザー参加	【日程】9月23日(日)、【会場】神戸聖隷福祉事業団内 神戸愛生園
あじさいの会	【日程】11月22日(木)午後、【会場】総合福祉センター、【参加者】11人(含む事務局) 【内容】元相談員の集まり、旧交を温める

Ⅱ. 2019年度 事業計画

神戸いのちの電話は、1981年任意団体として開局、2002年に社会福祉法人として認可され、多くの方々のご支援によって本年開局38年目を迎えます。

全国では1998年より、年間3万人を超える自殺者数が14年間続きました。このような状況に対して、官民一体となった対策の結果、昨年は2万1千人台を割り、もう少しで1万人台というところまで低下してきました。私たちもその一翼を担って活動した成果であると自負しております。しかし未成年の自殺の増加や子どもへの虐待による死など、「いのちの電話」が必要とされる状況は無くなるどころか増加傾向にあります。私たちは今後も悩み苦しむ人々に寄り添っていかなければならないことを再確認するところです。

このような状況を踏まえつつ、神戸いのちの電話として、2019年度は以下の事項を重点に取り組んでいきます。

- ◎電話相談24時間365日の実現に向けて前進する(電話相談時間帯の拡大、相談員の増大を図る)
- ◎相談員のスキルアップ、心のケアなど支援体制を充実する(実際の相談電話に則した継続研修、相談員の心のケア・悩みの窓口等の充実・活用)
- ◎財政状況を安定化させる(会員制度の確立、支出の削減を図る)

重点事項とともに、これまでの活動も継承しながら、以下の形で個別、具体的な活動を行なっていきます。

1. 電話相談事業

- ①電話相談時間は、平日・土曜の12時間の電話相談活動(8:30~20:30)、日曜・祝日は7.5時間(8:30~16:00)とします。
- ②365日無休で電話を受け、第2、第3、第4金曜日と毎週土曜日には深夜帯も活動を行います。(第3金曜の深夜帯の追加)
- ③全国統一の毎月10日のフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」は、24時間(8:00~翌朝8:00)での対応を継続して実施します。
- ④相談員のセキュリティを確保しながら、24時間365日化、「眠らない電話」の実現を目指します。
- ⑤当番予約のインターネット化を活用し、また「空き枠れんらく網」を利用して急な当番キャンセルへもスピーディーに対応して、当番のいない時間帯の防止に努めます。

2. 相談員養成の充実と相談員の増員

- ①34期の「相談員養成講座」は、仮認定の実習期間となり、電話当番や継続研修を行いながら、10月の本認定へ向かいます。35期の「相談員養成講座」が4~5月の8回シリーズの公開講座の後、6月の面接を経て開始されます。翌年3月の仮認定後、6ヶ月のインターン期間の後、10月に本認定とします。
- ②4月からの公開講座とその後の養成講座は木曜日夜間実施とします。
- ③休会や退会の相談員の「復帰プログラム」を周知させ、相談員への復帰を促進します。
- ④新任相談員の定着を図るため、1年目の年度末でのスーパービジョンを定例化し、新任相談員へのサポート体制の構築へ向け、検討を進めます。

3. 相談員研修の充実

- ①必修の研修として、「継続研修」12グループ(うち1グループは34期新任相談員を対象)を毎月実施。

- ②「全体研修」(必須)の講義については4~5月の公開講座の受講、近隣センター主催の全国研修大会への受講等を代替に、またフリーダイヤルロールプレイ研修については、これまで実施した講義と実習を組み合わせる方式の継続実施(時期は11月の予定)。
- ③相談員の心のケアのための「スーパービジョン」とともにベテラン相談員、認定5年目までの相談員にも3年に一度程度の「スーパービジョン」を実施。
- ④統計小委員会による電話相談内容の調査研究の推進とその成果の研修などへの活用。
- ⑤実際の相談電話に則した継続研修を行って、聴く力の向上や緊急対応への共通理解の形成。
- ⑥情報の共有と相談員の質の向上を図るため、研修委員の一泊研修の実施。
- ⑦新任相談員の正式な認定が10月となることから、4月には従来の現相談員の更新や研修委員の委嘱を行うKINDの会とともに、10月には新任相談員の認証式を行い、それとともにOB相談を含めた交流の集い(秋のKINDの会)の実施。

4. 事業資金の確保

- ①会費の確保、増収を図るため、会員規程の明確化、会員名簿の作成、会員証の発行などによる会員制度を整備。また新しい会員候補への呼びかけ。
- ②寄附金、会費の増大を図るため、税額控除制度(2012年12月から所得税(国税)に関して神戸市より対象法人認可、2017年9月から神戸市市民税に関して対象法人認可)の広報。
- ③資金獲得に努め、法人財政の健全化を目指して、財務委員会と広報委員会の協力による積極的な広報活動。
- ④種々の助成金申請(特に今年度は相談員の研修費負担軽減をはかる)。

5. 広報・啓発活動

- ①公開講座の開催や、諸団体の講演会などへの講師の派遣による本法人への理解・協力の呼びかけ。
- ②広報誌、ホームページの内容充実による本法人への理解・協力の呼びかけ。
- ③広報誌、リーフレットなどをより多く団体や個人に配布して、本法人への理解・協力の呼びかけ。

6. 自殺予防のための特別事業

厚生労働省補助事業フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」への参加

- ①電話相談活動を毎月10日8:00~11日8:00に実施。
- ②全相談員へのフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」のためのロールプレイ研修の実施。

7. 兵庫県・神戸市の自殺予防対策協議会などへの委員の派遣

- ①兵庫県自殺対策連絡協議会
- ②神戸市自殺対策推進懇談会

8. その他

- ①各委員会の活動を活発化させて、相談員が意欲を持って活動を継続していけるように努める。
- ②昨年作成した冊子「相談員ハンドブック」を活用し、円滑な活動が続けられるように努める。
- ③ハラスメント防止規程を今年度中に策定し、運用を始められるように努める。